

歴史に憩う檀原市博物館において年に1回、発掘成果を発表するために成果展という形で展示する予定である。

問 現地説明会や展示をするだけではなく、もっと多くの人に見てもらおうようにするためにはどうすればいいのか。

答 発掘成果を多くの人に体験してもらおうことも考えている。現在、歴史に憩う檀原市博物館では、出土遺物の整理等の作業を1階のガラス張りの部屋で行っている。来館者には、そこで整理作業内容を見てもらえるようになっていく。また、実際に作業を体験できるように遺物整理の考古学体験の学習カリキュラムとして構築していこうと考えている。

問 明日香村にもキトラ古墳、高松塚古墳に負けないような古墳が他にもあると聞いているし、本市にも未発掘の古墳が残っている。これをいかにそのままの形を残して発掘するか。そうすれば日本国中から多くの人が見に来てくれるかもしれない。世界遺産登録を目指す本市ならば、もっと違う形を取れないか。

答 市内の未発掘の場所につ

いては、将来的な課題として、時期、またチャンスがあれば発掘ということになると思う。キトラ古墳については、国営飛鳥歴史公園の事務所で整備の基本構想が作成されており、様々な体験学習ができる場をつくるということで、平成28年度の完成を目指して、作業を進めている。本市では植山古墳の整備に向けた実施設計を進めている。今後保存するとともに実物である石室を見学していただくための施設を、覆い屋をかけて整備するものである。整備完了後は、市内外の人に来て、見てもらえるように周知啓発の努力をしていきたい。

問 発掘をしてもすぐに埋め戻すが、なぜできるだけ保存し、子どもたちの学習の場として与えないのか。現地説明会等に来る多くの人は考古学ファンであり、子どもの姿はほとんどない。今後、世界遺産登録を目指すならば、せめて数カ月は発掘現場を子どもたちに見せてあげようにはできないか。本市にはまだまだそういう財産があると思うが、市長の考えは。

答 私も全く同感であり、発掘したものを埋め戻さず、そのまま残すことができないかというのを何回も問うている。風化させずに保存するために埋め戻しているが、他にも風化させない方法はないかということも含めて考えていかねばならない。何も埋め戻した土や原っぱを見て当時の様子を想像するのではなく、そこにあるものを見て、触れることができれば意味がない。残すことも大切だが、子どもたちに興味を持ってもらいたい。残すことには、今のままのやり方では非常に難しいと思う。世界遺産登録に関して当然そうであり、登録に向けて今以上に次の世代にきちんと伝えられる方法がないかということを考えていく。



植山古墳

掘したものを埋め戻さず、そのまま残すことができないかというのを何回も問うている。風化させずに保存するために埋め戻しているが、他にも風化させない方法はないかということも含めて考えていかねばならない。何も埋め戻した土や原っぱを見て当時の様子を想像するのではなく、そこにあるものを見て、触れることができれば意味がない。残すことも大切だが、子どもたちに興味を持ってもらいたい。残すことには、今のままのやり方では非常に難しいと思う。世界遺産登録に関して当然そうであり、登録に向けて今以上に次の世代にきちんと伝えられる方法がないかということを考えていく。

一般質問
奥田 英人
(自由民主党)

災害時に於ける
危機管理体制

問 かしはら安心パークができて、市も防災に力を入れ市民の防災意識も上がってきたと思うが、自主防災会の結成率は。

答 阪神淡路大震災が発生した平成7年より自主防災組織の結成と育成を支援して、145組織、3万7,727世帯、加入率74.2%となっている。

問 水害時の土のう袋の置き場は。

答 寺田町の高田バイパス高架下に3千袋、西新堂町跨線橋高架下に200袋を準備しており、消防団にも活用できるような体制をとっている。

問 西新堂町は寺川のそばで流域面積もかなり大きく、災害が起これば、かなり大きな被害が出ると思うが200袋は、少ないのでは。各消防団、公民館等に自主防災会、消防団員がすぐに取りに行けるよ

うに置くことはできないのか。
答 河川の氾濫等で200袋は不足と思うが、順次整備をしていきたい。一括管理の方が、分散しているよりもベターであると考えている。

問 昨年10月にオープンした、かしはら安心パークは、放水訓練、オイルパンの消火器訓練等もできる施設のようにだが、利用と訓練状況は。

答 昨年10月から3月まで、72団体2,448名が訓練、研修、会議等で利用され、消防団の独自訓練と合わせると、約3,300人が利用された。消防団の方には、輪番で土日も詰められている。今年度も自主防災組織、自治会等の利用で土日は、ほぼ埋まっている。

問 かしはら安心パークでの訓練内容は。

答 消防、防災、防犯の講座、訓練ができる。消火訓練は、係員の立ち合いのもとで、実際に火をつけ消火ができ、AEDの心肺蘇生、スモークマシンの心臓体験等も実施している。

問 子ども向けの訓練内容は。
答 メニューの中には、子ども向けに簡単な形で消火活動、